



中里の家だより
第17号

発行年月日
平成3年2月15日

発行
社会福祉法人
安房広域福祉会

〒294-02
館山市中里288-1
0470(28)2022

新年にあたって

施設長 山口 一

年もあらたまり、新しい気持ちでの毎日を過ごしていることと存じます。世情はいろいろな事が勃発して騒がしいようですが「中里の家」は関わりなく平穏な生活が続いております。

過日は、今年成人を迎えられた三名の方の成人式を盛大に行いましたが、有意義な一日だったと自負しております。これから、この成人者は勿論のこと、入所生全員の楽しい人生、生きがいのある人生を醸成していかなければならぬと心を新たにしました次第です。

今、施設では増築整備も終り、

新しい仲間たちも加わり、総員七十六名が明るく楽しい生活を送っているところでありますが、この間、こんなことがありました。

とんとんとノックの音、花を入れた花びんを持って園生が入ってきました。一瞬なんだろうと思いましたが「施設長、わたしたちがさしたお花です。机にかざってください。」と言いました。あつ、今日はクラブ活動の日だ。これはお花クラブの作品だと気付きました。「きれいだね。うまく生けてあるな。どうもありがとう。」と言いますと、にっこりと満足そ

うな笑顔。そうしますと、また、とんとんとノックの音、今度は別の園生がお盆を支えて入ってきました。「施設長、私たちが作ったホットケーキです。食べてください。」これはお料理クラブの作品だったわけです。「やあー、おいしそうだな。どうもありがとう。」と言いますと、これまた、にっこりと満足感あふれる笑顔でした。

私は、美しい花を見ながら、おいしいケーキを御馳走になりましたが、目がしらの熱くなるのを覚えめました。わが施設の園生も、このようなことも出来るようになってきたと自己満足にひたった次第です。

これは施設生活のほんの一例ですが、園生も職員も共に学びながら生活をエンジョイしているということを示したかったからです。施設の使命、それは、とりもなおさず園生の幸せを追求し達成していくことだと、改めて自分に言い聞かせた次第です。

ところで、「中里の家」は開設五年目を迎えるわけですが、ようやく落ち着いた運営に取り組める

段階になりました。

従来からの基本的な方針が変わるわけではありませんが、「個人の尊重」をモットーとした、特色ある施設処遇の展開を図っていかねければならない時期と受け止めております。

具体的に、わが施設としては何が出来るのだろうか。大変に難しい問題には違いありませんが、私たちは、はっきりとした意識を持ち、使命感を背負って取り組んでいきたいと考えております。

今は丁度、来年度の事業計画・予算を編成する時期でありまして、職員一同が夫々のノウハウを出し合って検討している所であります。いずれ成案が策定されました時にご説明を申しあげたいと思っております。

今後とも「中里の家」にご理解とご指導を切にお願いする次第であります。



成人おめでとう

「成人の日」の一月十五日、中里の家でも新成人をお祝いし、成人式・新年会が盛大に開かれました。

今年は佐久間晃くん・石川ひろみさん・高梨京子さんの三名が晴れて大人の仲間入り。各々、りりしい背広姿や華やかな着物・袴姿でいつもとは少し違った顔を見せてくれました。

記念撮影の時、緊張の為か少しこわばっていた顔つきも、成人者入場の際には誇らしげな顔に変わり、いよいよ成人式の开幕式です。

施設長の挨拶の後、理事長、保護者会々長、そして来賓の方々からの温かい御祝辞をいただき、その言葉をうけて新成人代表として、石川ひろみさんが「これからも何事にもがんばってゆきたい」と成人の抱負をしっかりとした口調で語りました。そして新成人から保護者へ、感謝の気持ちを込めての花束贈呈。皆の顔がすっかり「大人の顔」になった一瞬でした。

成人式が終わると次は新年会へと移ります。大勢の保護者の方々のお出陣もあり、会場となった食堂はあふれんばかり。以前にも増して盛大な新年会となりました。

乾杯の音頭とともに会は始まり目の前に並んだ、心のこもった御馳走に舌つづみを打ちながら話は大いにはずみ、時間のたつのも忘れてしまう程でした。それに色を添えてくれたのは、園生と保護者の代表によるアトラクション。この日のために一生懸命練習した園生も、今回が初公開だという保護者の方々もすばらしい踊りを披露してくれ、会場を大いに沸かしてくれました。

会の盛り上がりも最高潮。続いて待ってましたとばかりにカラオケが始まりました。新成人の石川さん、高梨さんを交え、のどには自信のある人ばかり。会場は歌声と拍手の嵐で大にぎわい。

そんな中、あっという間に二時間が過ぎ最後の三本じめでいよいよお開き。この頃には、新成人の三人もいつもの笑顔に戻っていました。

(行事係 戸倉悦子)

成人者紹介

佐久間 晃くん

佐久間晃君は、昭和四十六年三月二十六日生まれ。

いよいよ二十才。大人の仲間入りです。ますますハンサムな好青年で、中里の家の人気者です。作陶部での晃君の仕事は、素焼きが終った湯のみや、お皿のヤスリかけです。物静かで、何事にもびくともせず、いつも

笑顔の晃君。顔を真っ白にして、一生懸命行っています。これからは、成人として自分の事は勿論、人の面倒を良く見て、頑張ってください。

(作陶部職員)

石川ひろみさん

昭和四十五年十二月二十四日生まれの元気のいい明るい、ひろみさんは、今年度の四月に中里ファミリーの仲間入りをしました。

入所以来、縫製部に入り、はじめて針を持ったというひろみさんでしたが、少しやり方を教える程度か失敗しながらもどうにか、作品を作ることが出来ました。

成人者になって、どうしたいですかとたずねると、「作業を一生懸命にやりたいのでよろしくおねがいします。」と答えがこえてきました。これからの作業に職員はみんな期待しているので、がんばって下さい。

それから本人がやってみたいことは、ジュースを入れて少しずつビールが飲みたいとのことでした。

※成人おめでとう。(縫製部職員)



高梨京子さん

昭和四十五年十一月十八日生まれの中里の家の人気者です。

縫製部では、入所以来四年目の大ベテランです。はじめの頃は、針に糸を通すことすら出来ませんでした。が、今では、本人の努力により、真すぐに縫えるほどになりました。自分から「先生、出来ました」とニコニコしながら知らせしてくれるようにもなりました。

そして、数多くの作品が京子さんの手によって作られています。

京子さんに、成人になって、何をしたいですかとたずねると、「一生懸命に、作業をがんばります」と答えて返ってくるぐらいははっきりしています。

これからいろいろな事があると思いますが何事に対しても最後までがんばって下さい。(縫製部職員)

息子の成人式を迎えて

佐久間容子

一月十五日「成人の日」には、盛大にお祝をしていたいただきまして誠にありがとうございます。

初めて着た背広姿に、ちよっぴり青年らしさを感じました。兎は少しはずかしそうでしたが、うれしさいっぱいで楽しい一日でした。先生方の計いで感謝の気持ちとして我が子から花束を受け取った時には、二十年間のいろいろな事が思い出され、目頭が熱くなり、どうする事も出来ませんでした。養護学校開校と同時に入学した時の事が、ついこの間のようにも思われます。これまでの二十年の間には、病院のお医者さん、看護婦さん、学校の先生方、施設長さんをはじめ、指導員の皆様等々、数えきれないほどの多くの人達に、お世話になった事を、忘れる事は出来ません。これまであなたがたく見守って下さった皆様に、感謝の気持ちでいっぱいです。

これからは、自分の事は自分でするという目標に向かって、一步一步前進してほしいと願っています。今後とも、よろしくお願いいたします。

成人式のお礼のことば

石川 實

中里の家に入り、早いもので、もうじき一年を過ぎようとしております。一月十五日の成人の日には、施設長さん、先生方、保護者の皆さんには、色々とお世話になり、ありがとうございます。世話になりました。子供達の楽しいおどりで、お母さん方のおどりで、又、記念写真や歌など、一日を楽ししく過ごせた事を、親子共々うれしく思い、一生の思い出となります。

ひろみも二十才を迎え、これから大人の仲間入りになります。が、作業の方は、なかなか大人にはなれません。これから先、先生方に色々ごめいわくをかけると思いますが、本人も一つでも物を覚える事をよるこんでいると思います。又、本人も、作業の話や人に聞かせてくれるのが楽しいようです。

これからも、なにかとごめいわくをかけると思いますが、よろしくおねがいします。

娘の成人に思う

高梨耀子

今日は娘の成人式、少々太りぎみの娘の晴れ姿に、思わず笑いがこみあげてきて「京子、貫禄十分よ」と言いますと、娘は「うん」と言って、自分も笑っていました。こんな無邪気な娘の姿を見ていると、二十年間の出来事が色々思い出されます。中でも忘れられない体験があります。それは娘が小学部五年生の夏休みでした。地域の青年会議所で主催したキャンプに、健康な小学生と一緒に友達と二人で招待され、参加しました。一泊二日のバスの旅でしたので、否応なく親と離れなければなりません。初めての外泊でも心配しましたが、スケジュール通り事故もなく終えて来ました。その時の様子は、後の子供達の作文で知ることが出来ました。ある小学生から「僕は障害者と一緒に泊まって、自分が健康な身体に生まれて良かった。だから障害者には親切にしよう」とか「一緒に生活して障害者の優しさがわかり涙が出ました」などと書いてありました。こんなすばらしい子供達に会えて色々な体験をした娘は幸せです。

新人職員の挨拶

事務員 眞田武浩

小塚大師目前の家で四五年二月に産声を上げて以来、最終の二年間、東京の事務関係の専門学校で課程を終了しました。

本当に月日のたつのは早いもので昨年七月に採用されてから半年が過ぎ去りました。初めの頃は戸惑いと不安ばかりでしたが、先輩のご指導により、今では仕事の流れや環境にもなれてきました。今後、自覚と責任をもって中里の家の為に頑張りたいと思います。これからもご指導の程をよろしくお願いいたします。

指導員 押元 昇

私は、昨年の七月より勤務をしている、押元です。

高校を卒業してから、ある千葉県市に支店を持つ運送会社に約七年間勤め、その後この中里の家に勤めることになりました。入った当初は、驚きの連続であり、そして、

失敗の連続でもありました。何かやるにしても、園生以上に時間がかかってしまったり、作業などで使う機械の操作がわからず園生に聞いたことも何度かありました。今では、少し慣れ、やっと教えてやれるようになりました。これからも失敗はすると思いますが、めげずに頑張っていきたいと思えます。

指導員 鈴木かず子

中里の家に勤務し、家族の理解と協力のもとに、早半年過ぎました。私の家族は、夫・息子二人の四人家族です。今まで家を守り外に目を向ける事が少なかった為、私が、外に出る事に対し、最初

のころは、夫も息子も、戸惑いが多く有りました。慌しく日々を送りながら、今日まで、なんとか勤めて参りました。現在は基礎訓練班に所属し園生と紙粘土を丸めたり、自由画でクレヨンを手を持ち描く訓練に励んでいます。今後共、皆様の御指導を戴き頑張って行きたたく、宜敷くお願い致します。

指導員 亀田玉世

昨年の七月から、職員として勤務している、亀田と申します。

私にも、高校生の娘と、中学生の息子がおります。中里での毎日でも大勢の子供達に囲まれ、家庭の続きの様な毎日を過ごしています。最初は、名前を覚えるのに苦労しました。耳慣れない「亀田先生」と呼ばれ、くすぐったい気持ちでした。

明るく親切な、先輩職員の方々の温かい御指導で、今日迄無事に過ごせた事、感謝致しております。体の続く限り、中里ファミリーで頑張りたいと思えますので、宜しくお願い致します。

指導員 笹子栄子

私は、昨年七月からこの職員として働いている笹子栄子です。

初めの頃は、園生にどう接すればいいのかわからず、失敗の連続でした（今でもそうですが）。しかし、その度先輩の職員の方々に指導して頂き、半年が過ぎました。今では、自分なりにがんばっているつもりですが、まだまだ半人前

で、皆さんにご迷惑をおかけするかと思えます。先輩の職員の方々の指導を頂き、がんばりたいと思えますので、よろしくお願いいたします。

編集後記

早くも平成も3年を迎え、中里の家の園生たちはみんなそろって1月21日小塚大師初詣に行ってきました。「今年も元気で楽しく過ごせますように」とお願いした人が多かったことと思います。最近一段と寒さが厳しくなり、風邪などひかないかと心配ではありますが、中里の家のみんなは元気にこの冬を乗り越えてくれることと思えます。

平成3年新年号として、今年成人式を迎えた3名の園生の紹介をはじめ新人職員の挨拶など編集した「虹」をお届けします。

尚「虹」を発行するにあたりご協力下さった方々、有難うございました。またこれからもよろしくお願い致します。